

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

「ハコモノからヒトへ、そしてテクノロジーへ」 — 進化する医療提供体制とAIの可能性 —

理事長 織田 正道

人口構造の変化と科学技術の進歩は、医療のあり方に絶えず大きな影響を与えてきました。昭和から平成にかけては、いわゆる「ハコモノ」と呼ばれる病院や介護施設の建設など、物理的インフラの整備が重点的に進められました。しかし平成後半に入ると、後期高齢者の急増に伴い、慢性疾患や生活習慣病への対応が重要な課題となりました。同時に、医療の質や安全性がより強く求められるようになり、人材育成や多職種連携による医療チームの機能強化といった、「ヒト」への投資が重視される時代へと移行していきました。そして令和の時代を迎え、2035年には85歳以上の人口が1,000万人を超える社会の到来が10年後に迫り、現実味を帯びてきました。それに伴い、医療・介護の需要はますます増大しています。一方で、我が国は未曾有の人口減少期に突入しており、あらゆる分野で人手不足が深刻化しています。これらの構造的課題に対して、従来の延長線上にある対策だけではもはや限界があること

は明らかです。こうした中で、医療分野においても「テクノロジー」の活用が新たな柱として強く期待されています。特に生成AIに代表される技術革新は、すでにさまざまな業界で活用が進み、市場規模も急速に拡大しており、2025年以降さらに加速すると見込まれています。AIは、単なる業務効率化の手段にとどまりません。医療の質を高め、医療従事者の負担を軽減し、さらには「患者中心の医療」を実現する可能性を秘めています。実際、当院でも導入している診療記録の自動作成や電子カルテ入力支援は、医師や看護師の事務負担の軽減に寄与し始めています。また、チャットボットによる外来予約や問診の自動化、遠隔モニタリングを活用した在宅医療の支援など、AIの活用範囲は日々広がっています。もはやテクノロジーは人手不足を補うだけのものではなく、「人とテクノロジーが協働する」新たな医療モデルの中核を担いつつあります。とりわけ、人口減少や高齢化の進む地域医療においては、

アクセス課題を克服するためにも、AI、ICT、ロボティクスといった「デジタル・ヘルスケア」の導入が鍵となります。今後の医療提供体制は、「ハコモノからヒトへ、そしてテクノロジーへ」という視点で、根本から再構築していく必要があります。

この変化は単に設備や制度を整えるだけでは不十分であり、社会全体の意識改革と、新しい価値観の共有を通じて初めて実を結ぶものです。医療は時代の鏡です。その姿を敏感にとらえ、変化に柔軟に対応しながら、次の時代の医療を築いていくためには、私たち一人ひとりが未来を見据えて行動することが求められています。

テクノロジーの力を最大限に活かしつつ、「人間らしさを忘れない医療」をこれからの時代に確かなかたちで築いていきたい—私はそのように強く願っています。

ハコモノからテクノロジーへ



「未来型医療研究所を開設していただきました」

ゆうあい社会福祉事業団 未来型医療研究所 末岡 榮三朗

2025年4月1日より一般社団法人ゆうあい社会福祉事業団未来型医療研究所および祐愛会高島病院で働かせていただいております末岡榮三朗（すえおかえいさぶろう）と申します。1984年に佐賀医科大学（現・佐賀大学医学部）を卒業後、織田病院の外来や当直で勤務させていただいておりましたので、40年以上のお付き合いになります。私の専門は血液内科学、輸血医療および臨床検査医学で、特に成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）をはじめとするHTLV-1感染症の診療と研究、がんの分子病態やゲノム検査に関わってきました。

国立がんセンター研究所、埼玉県立がんセンター研究所などで基礎研究を学び、1990年代後半より母校である佐賀大学に戻り、活動してまいりました。特にライフワークととらえているHTLV-1感染症の診療については、2012年に全国に先駆けて佐賀大学病院にHTLV-1専門外来を開設しました。佐賀県の支援を受け、臨床心理士との連携によるカウンセリング体制を整備し、患者の心理的・社会的背景にも寄り添う診療を行うという外来形態が全国の注目を浴びました。

2019年から4年間は医学部長としての活動が中心となりましたが、ちょうど新型コロナウイルス禍が始まった時期と重なり、様々な社会活動の制限と変化、社会的な行動変容を余儀なくさせられた激動の時期でした。この新型コロナウイルスに振り回された時期においても、医療の在り方（正確には社会活動全体の在り方）は、患者や弱者に寄り

添う姿勢やあるべき社会活動への責任感が社会生活を支えてくれることを実感しました。

今回、未来型医療研究所という何ともつかみどころのない（わけのわからないともいう）研究所名をつけさせていただきました。このような活動を提案した理由には、自身が行ってきたA-を活用した次世代医療支援システムの構築や医療と情報科学の融合を目指し、分散型医療情報共有技術やがんゲノム医療の実装に取り組みしてきた経験と、国が掲げる「次世代医療基盤法」の存在があります（図参照）。



MID-NETの目的と概要



AHEC国産ゲノム情報統合データベース整備事業

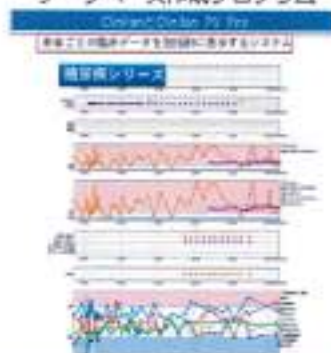
国内完結型がんクリニカルシーケンスの社会実装と統合データベース構築およびゲノム医療人材育成に関する研究開発

研究開発代表者
末岡 榮（京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座）

研究開発分担者
西澤 孝（岡山大学）
西澤 孝（北海道大学）
西澤 孝（千葉大学）
三宅 隆（東京医科大学）
末岡 榮三朗（佐賀大学）



膨大な検査データから臨床研究を遂行するための
データベース作成プログラム



多施設共同研究に対応する医療情報連携型バイオバンクの構築



「次世代医療基盤法」は、AIによる画像診断や予測モデルの開発、希少疾患や副作用の早期発見、個別化医療（Precision Medicine）の実現、医療資源の最適配分と政策立案の高度化などを目指しています。しかし、「社会と個の関係」を見誤ると冷たい血の通わない医療活動の乱立になる可能性があります。祐愛会が20年以上前から取り組まれてきた医療DXを学びつつ、10年後の総合的な医療の在り方を考えていけたらと思っています。現在これまで行ってきた前述の活動の外、本年度から東北大学病院医療データ利活用センターとの共同研究もスタートします。佐賀大学病院と織田病院の外來、高島病院での病棟や外來での実臨床に加えて、未来型医療研究所としての活動も進めてまいります。なにとぞよろしく
お願い致します。

7月より地域包括ケア病棟を

20床開設しました

事務管理課 中村 典弘

当院では、令和7年7月より「地域包括ケア病棟」として20床新たに開設いたしました。これにより、今まで以上に患者さま一人ひとりの回復過程に応じた、細やかな医療と看護を提供する体制を目指します。

地域包括ケア病棟とは、急性期の治療を終えた後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者様に対し、在宅復帰に向けた支援を行うための病棟です。リハビリテーションや在宅療養の準備、介護支援との連携などを通じて、安心して日常生活に戻っていただけるようサポートします。

当院では、多職種が連携したチーム医療を実践し、医師、看護師はもとより、リハビリスタッフ、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、地域連携室などが一体となって患者さまの退院支援を行います。また、地域の

かりつけ医や訪問看護ステーションとも連携し、退院後の生活をしっかりと見守る体制を構築しています。

今後も地域に根ざした病院として、「住み慣れた自宅で安心して暮らしたい」という患者様の思いに寄り添い、切れ目のない医療と介護の提供を目指してまいります。引き続き、当院の取り組みにご理解とご協力をお願い申し上げます。





診療科Pick Up 整形外科



整形外科

小宮 紀宏

このたび、令和7年春より祐愛会織田病院に整形外科常勤医として赴任いたしました。小宮紀宏と申します。当院では、これまで整形外科の常勤医が不在であったため、今回の着任にあわせて新たに整形外科を開設する運びとなりました。地域の皆様にとって身近な整形外科診療の拠点となれるよう、微力ながら尽力してまいります。

私は熊本大学医学部を卒業後、九州大学整形外科に入局し関連病院にて研修を受けました。その後は唐津赤十字病院で5年間、佐賀市の佐賀県医療センター好生館で10年間勤務いたしました。好生館では膝関節を中心とした関節外科疾患と整形外科外傷を担当いたしました。

祐愛会織田病院では、整形外科医として一人体制での診療を行っております。現在は手術症例には対応しておりませんが、外来では変形性関節症、腰痛、骨粗鬆症、打撲・捻挫などの整形外科的外傷疾患に対して保存的治療を行っております。入院診療では、主に高齢者の外傷などの保存的加療、また近隣医療機関で手術を受けた方の術後リハビリテーションを中心に対応しております。

鹿島地区は高齢化が進行しており、運動器疾患の診療ニーズは年々高まっていると感じております。骨折予防や慢性疼痛の管理、ADLの維持・改善といった整形外科の役割は、今後ますます重要になると考えております。地域住民の方々ができる限り住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、地道な診療を積み重ね、地域に根差した医療を提供していきたいと考えております。

私は現在、佐賀市内から車で通勤しております。朝の車窓から眺める田園風景には日々癒されており、季節の移ろいと自然の美しさを感じながら、一日の始まりを迎えています。こうした風景のなかで医療に従事できることに、改めて感謝の念を抱いております。

今後とも、地域の先生方との連携を大切にしながら、必要に応じて適切なタイミングでのご紹介や逆紹介を行ってまいります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



初期臨床研修プログラム開始

～地域医療の最前線で、最先端の初期研修～

当院では昨年4月に「基幹型初期臨床研修病院」として認定を受け、今年度第1期生として2名の研修医を迎えました。当院の研修プログラムは「地域医療の最前線で、最先端の初期研修」がテーマです。院内外で精力的にご活躍中の2名の先生方ですが、現時点での研修の感想や今後の意気込みをお聞きました。



松浦 怜

臨床研修医の松浦怜です。勤務を始めて約3か月、学生実習時に感じた以上に多職種間の垣根のない温かい雰囲気と支えられながら、多くの経験を積むことができ日々成長を実感しています。織田病院の研修プログラムでは、豊富な症例や手技に加え、抄読会・学会発表など、学びを深める機会も多く、とても恵まれた環境だと感じています。今後も初の基幹型研修医として少しでも貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



内野 志保

今年から始まった基幹型臨床研修の第1期生として、織田病院で研修をスタートしました臨床研修医1年目の内野志保です。プライマリケアを実践できる医師を目指して、毎日多くのことを学びながら、充実した日々を過ごしています。患者さんの生活に寄り添った診療や、多職種とのチーム医療の大切さを実感する毎日です。温かく丁寧にご指導して下さる先生方のもと、この環境で研修を受けられることをとても嬉しく思っています。2年間、元気に楽しく頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます！

クローズアップ

人材戦略室長 川崎智幸さんに
インタビュー



Q1. 今までの経歴をお聞かせください

新採から6年間は、福岡県の中学校で体育教師として勤務しました。(新採から3年間は、なんと筑豊地区) 29歳で佐賀県に採用され、県教育委員会から社会教育主事(スポーツ担当)として川副町や塩田町に派遣されました。34歳から西部中学校や東部中学校に勤務し、最後は、白石中学校校長で定年を迎えました。その後4年間、再任用で西部中学校にお世話になりました。41年間中学校の現場で働いて参りました。

Q2. 祐愛会(織田病院)の印象をお聞かせください

とにかく、すべての施設が広大で明るく清潔だと思います。職員の方は、常に患者さんや入所されている方を第一と考え、笑顔で優しく声かけ等をされています。また、最先端の医療機器と設備が整い、県内屈指の地域医療の中核であり、素晴らしい法人であると感じています。

Q3. 祐愛会に就職するきっかけは?

以前からスポーツを通して親交のあった織田理事長様と、スポーツの捉え方や今後の鹿島について、また古き良き時代“昭和”についての話で盛り上がり「うちのグループで仕事しないか?」と誘っていただきました。

Q4. 祐愛会(織田病院)で今後どのような活動をしたいですか?

“入院や入所、通院されている患者さんが元気になるためには、職員が元気でなければならぬ。”という考えから、祐愛グループに元気を与えたいと思っています。毎朝の挨拶運動で職員の皆さんに活力を与え、中学校や高校とのパイプ役として活発な生徒さんを入職していただくような活動を行いたいと考えています。6月13日(金)新入職員さんのフォローアップ研修会では、体育教師だった経験から“ODAリンピック”こと、ミニ運動会を企画運営し、大いに盛り上がりました。

グローバルスタッフ交流会を 開催しました!



今年度、法人のグローバルスタッフが50名を超え、外国人材支援室が設置されました。その活動の1つとして、グローバルスタッフをメインに国籍を問わない定期的な交流会を予定しています。

5月の交流会はゆうあいビレッジで行いました。法人内の施設から総勢約100名が集まり、理事長と職員によるバンド演奏やグローバルスタッフの自己紹介をしていただきました。普段顔を会わせないスタッフとも話す機会があり、大変盛り上がりました。職員の交流促進やグローバルスタッフのより働きやすい環境をつくるため、今後も計画的に行っていく予定です。



新任医師紹介



今村 友也
いむら ともひこ

消化器内科

医師4年目の今村友也と申します。

福岡大学出身で、佐賀大学消化器内科に入局、佐賀大学、伊万里有田共立病院で勤務しました。

地域医療を学ぶ上で織田病院に勤務できることを嬉しく思います。

少しでも貢献させていただければと思います。よろしくお願いいたします。



山田 脩斗
やまだ しゅうと

内科

研修医2年、総合診療部3年。現在織田病院で医師6年目です。まだまだ至らない点が多く、ご迷惑をおかけする事も多いですが、業務は遂行するようにします。よろしくお願いいたします。

よろしくお願いします。
致します。



牧尾 成二朗
まきの せいじろう

内科

今年度より2層目の赴任となりました内科の牧尾と申します。総合内科専門医として、内科や救急医療、感染対策等全般に関わらせて頂きます。地域医療の要としての織田病院を支えられるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。



松浦 洋
まつだ ひろ

外科

沖縄県出身で佐賀の中学高校を経て長崎大学を卒業後、佐賀に戻ってまいりました。佐賀で医師として勤務を始めてる年目になります。安心できる医療を提供できるよう邁進してまいります。よろしくお願いいたします。



紀井 大志
きい たいし

耳鼻咽喉科

九州大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科グループの紀井大志と申します。九州大学医学部医学科を卒業後、本年度で医師5年目・耳鼻科3年目となります。織田病院耳鼻咽喉科では、耳科手術・補聴器診療・人工内耳等が積極的に行われています。小宗先生・岡村先生の下で、織田病院でしか学べないことを吸収していきたいと考えております。



范 綾
はたけ りな

形成外科 医長

形成外科の范と申します。佐賀大学出身で、これまで久留米大学病院の各関連病院で診療を行ってききましたが、最近では解剖学の研究・教育にも携わっております。今年度からは地域医療に貢献できるよう邁進してまいります。



小宮 紀宏
こみや のりひろ

整形外科 部長

今年度より整形外科に赴任いたしました小宮紀宏と申します。熊本大学を卒業後、九州大学整形外科に入局し、医局の関連病院で研修を積んでまいりました。その後、唐津赤十字病院で5年間、佐賀県医療センター好生館にて10年間勤務いたしました。これまでの経験を活かし鹿島地区の医療に貢献できればと考えております。



前山 彩
まえやま あやか

皮膚科

皮膚科3年目、医師5年目の前山彩と申します。佐賀大学出身で、佐賀大学皮膚科に入局し、佐賀大学、好生館で勤務しました。民力ではございますが鹿島の医療に貢献できるように励みたいと思います。よろしくお願いいたします。



内野 志保
うちの しずか

臨床研修医

臨床研修医1年目の内野志保と申します。佐賀大学出身です。織田病院で2年間研修させていただきます。分からないことも多いですが、一生懸命勉強していきますので、ご指導よろしくお願いいたします。



松浦 怜
まつだ れい

臨床研修医

臨床研修医1年目の松浦怜と申します。佐賀大学出身です。右も左もわからず勉強することばかりですが、織田病院での基幹型臨床研修医の1期生として地域に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

Introduction of new staff

新入職員紹介

織田病院



小森 輝流
リハビリテーション科
理学療法士



松本 はるひ
リハビリテーション科
理学療法士



馬場 穂乃香
リハビリテーション科
理学療法士



奥田 直美
外科・手術センター
看護師



三保 拓也
3階西病棟
看護師



片淵 みひろ
3階西病棟
看護師



杉光 希優
3階西病棟
看護学生



古賀 愛望
4階西棟
看護師



林田 充紀
4階西棟
看護学生



朝日 文浩
療育科
臨床師



北川 真琴
療育科
薬剤師



石井 晴菜
診療支援部検査科
臨床検査技師



大野 裕輝
運営センター
社会福祉士

ようこクリニック



百崎 風凧子
事務



上野 翔太郎
情報管理室
臨床工学士



中島 優奈
医療秘書科
事務



崎濱 雄希
医事課
事務



馬場 来美
医事課
診療情報管理士

ゆうあいビレッジ



山本 梨央奈
小規模サテライト
介護福祉士



山口 みやび
小規模サテライト
介護福祉士



サウンズビュー
1階看護棟
介護職



ソーパパチョー
2階看護棟
介護職

高島病院



前田 莉里
医事課
事務



ティダ ソー
2階病棟
介護職



黒岩 玲玉
医事課
事務



カンアイナダリン
2階病棟
介護職

清涼荘



ハンヌエーニエイン
2階看護棟
介護職



ビック・ピット・ニューイン
2階看護棟
介護職

病院DXアワード2025

「病院DXアワード2025」は、病院のデジタルトランスフォーメーション（DX）推進を支援する企業を表彰するイベントで、2025年3月5日に「第11回メディカルジャパン大阪」内で開催されました。

祐愛会織田病院と株式会社オブティムが共同で取り組んだ「OPTiM AIホスピタル」がエントリーし、みごと「優秀賞」をいただきました！



看護師特定行為研修 入講式

令和7年4月7日、第7期生となる看護師特定行為研修の入講式を行いました。

今期は3名が入講し、いずれも在宅・慢性期領域の研修を受講します。

受講者は、当法人に所属する看護師で、『訪問看護ステーションゆうあい』、『高島病院』、『ケアコートゆうあい』に勤務しています。これから約1年間にわたり研修を進め、より良い医療提供のために研鑽を積んでまいります。

- ・志田 涼二 「ケアコートゆうあい」
- ・田中 瑞稀 「訪問看護ステーションゆうあい」
- ・石橋 千春 「高島病院」



合格おめでとう (2025年1月～6月)

氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得年月日
鎌方 花恋	3階西病棟	准看護師	2025.3.7
山田 蒼汰	4階病棟	准看護師	2025.3.7
前田 星	4階病棟	看護師	2025.3.24
ヘロナ ニキ リヤニ バロカ	4階病棟	看護師	2025.3.24
オトラ マリッサ シアニバー	3階東病棟	看護師	2025.3.24

氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得年月日
井上美穂子	機能訓練室	介護福祉士	2025.3.24
植松 真美	通所リハビリテーション	介護福祉士	2025.3.24
杉元 優花	デイサービス想ヶ岡	介護福祉士	2025.3.24
ダン ティ ゴック	グループホーム2丁目	介護福祉士	2025.3.24
サンダー リン	2階療養棟	介護福祉士	2025.3.24

編集後記

新たな仲間とともに
歩む春夏の季節

春の訪れとともに、新たな面々が私たちの職場に引き込まれました。4月には、期待と希望に満ちた多くの新入職員の皆さんを迎えることができ、フレッシュなエネルギーと意欲にあふれる姿に、私たちも刺激を受けています。

新入職員の皆さんは、初めての社会生活に戸惑いながらも、積極的に学び、チームの一員としての役割を果たそうと努力しています。その姿勢は、私たち先輩職員にとっても大きな励みとなっています。また、新しい新任の先生方をお迎えし、気が引き締まる思いです。

これからも変化と挑戦の連続ですが、私たち全員が一丸となって、より良い職場環境を築いていきましょう。新しい仲間とともに、さらなる飛躍を目指してまいります。

放射線科 坂田 義和

